

新・豊田市 100 年の森づくり構想（案）及び第 3 次豊田市森づくり基本計画（案）
パブリックコメントで寄せられたご意見と豊田市の考え方について

1 概要

(1) パブリックコメントの実施概要

- ・案件名 「新・豊田市 100 年の森づくり構想（案）」及び「第 3 次豊田市森づくり基本計画（案）」
- ・期 間 平成 29 年 12 月 15 日から平成 30 年 1 月 14 日まで

(2) 提出いただいたご意見の状況

- ・計 4 通（メール 4 通）
- ・項目ごとに分類すると、下記のようになりました。

① 森づくり人材の育成に関すること	1
② 森林環境教育の推進に関すること	2
③ 森づくりのための推進体制等に関すること	1
④ その他・感想	2
項目数	6

2 主なご意見と市の考え方（※ご意見は、趣旨を損なわない範囲で要約してあります。）

① 森づくり人材の育成に関すること

	意見の概要	市の考え
1	・「森保全」は楽しみでは無く「仕事」である。 ・「クルマ会社」は全員「クルマ好き」が受験し就職している訳ではないが、働いているうちに「クルマ好き」になっていく。森の担い手も、「森好き」を探しているは、担い手は増えていかないと思う。やっているうちに「森好き」になれば良いと思う。	新・森づくり構想では、森の担い手づくりとして、森づくり人材の育成を取組の柱の一つと掲げています。ご指摘のように、仕事をする中で仕事の楽しさを見つけていくことは大切なため、今後は岐阜県立森林文化アカデミー等と連携した人材育成を通して、現場人材の底上げを図るとともに、森の様々な見方や楽しみ方を習得し、「森好き」を増やしていけるよう取り組みます。

② 森林環境教育の推進に関すること

	意見の概要	市の考え
1	・豊田市の 100 年後の森づくりのために子どもたちと関わりのある施策も考えられると思う。すでにエコットによる木育などもあるが、たとえば、「子どもの森づくり」（以下「子森」）のような取り組みも考えられると思う。「子森」はあのねのねの清水さんの弟（富良野塾関係者）がしておられる運動で JP（郵便局）がスポンサーとなっているよう	豊田市は当初構想（2006 年度策定）から、2000 年の東海豪雨災害の経験を踏まえ、過密人工林対策を施策の柱として、間伐推進に取り組んでいます。このことから、子供たちが森と触れ合う機会の提供としては、間伐体験を軸として実施してきました。植林活動も森とふれあう機会の一つですが、豊田市の方針として間伐を重視していることや、ま

	である。森で拾った実を、幼稚園・保育園で苗木に育て、近くの空き地を森にするという運動。森にできる土地がなければできないのが問題かと思う。 ・豊田市ならば、整備すべき森林がすでにあるので、そこに植樹するための苗木を、市内の小中学校・こども園で育て、植樹することは可能かと思う。特に市街地のこども園等で、大きなポット（間伐材で作ったもの）で苗木を育て、子どもたちや、保護者代表が、遠足や、保護者会研修を兼ねて、山間部に足を運び、植樹して、豊田市の森に触れる機会を持つことは市民の理解や人材育成の上でも 100 年後につながるかと思う。	たそもそも市内では皆伐が少ないこともあり、植える場所が限られているのが現状です。 しかしご指摘のとおり、子供たち将来世代が森と関わることは重要なことから、とよた森林学校や出前講座、各種イベント等による森林体験の機会を引き続き提供するとともに、新・森づくり構想及び第 3 次基本計画では「木材の良さに触れる」という観点から、木育イベントの開催や常設型木育広場の設置など、子供たちが木に触れる機会を作ることで、地域の森や木材利用への関心を高めていきます。 「子森」の活動についても、今後の参考にさせていただきます。
2	・森林従事は、一般人から言うと特殊な仕事だと思ふ人も多しと思ふ。そこで、中学・高校での間伐体験等も森林都市としては、積極的に行い、特殊な仕事では無い事をアピールして欲しい。	森林作業の仕事は、製造業など他産業と比べ従事者数も少なく、人口の少ない山間地をフィールドにしていることから、その内容について十分に知られてないのはご指摘の通りです。そのため、より広く学生や市民に森の仕事について知ってもらうため、学校教育との連携や、とよた森林学校、各種イベント等による間伐体験を引き続き実施していきます。

③ 森づくりのための推進体制等に関すること

	意見の概要	市の考え
1	・市・林業関係者・ボランティア等を巻き込み、森の健全化を図る素晴らしい構想だと思ふが、「産官」が協力し、事業を行うアイデアが見えない気がする。 ・「産」が若い労働力を工場がある町に連れて行き、山間部の過疎化の一因にしている事も間違いない。「産」としては、土砂や水災害が生産が停まれば収益に関わるが、それは市の保全事業が悪いからか？「産」は他人事になっているような気がする。 ・「産」は少なからず、ボランティア等では協力しているが、この構想の中では、本当に小さい力だと思ふ。「産業都市+森林都市」第 3 セクター化等も協議して永続的な循環型のモデル都市を目指して欲しい。	産業界との連携については、新・森づくり構想及び第 3 次基本計画において「共働による森づくり」の中で位置づけ、市は企業等を森の応援団の一人と捉え、企業等による森づくり活動を支援することにしています。市内で定期的に間伐ボランティアに取り組んでいる企業も複数あり、市は現地指導や市有林の提供など企業等の活動に協力しています。 また 2018 年度には中核製材工場が市内に稼働予定で、流通コストの削減や木材販売の工夫など様々な点で川中との連携を強化し、補助金に過度に依存しない仕組みづくりや山元への利益還元につなげていく方針です。 今後も多様な企業との連携を強めていく方針ですが、産官連携をさらに強化していくべきというご意見については、今後の取組の参考にさせていただきます。

④ その他・感想

	意見の概要	市の考え
1	・少し、森林面積が多すぎる。ツリーハウスを造ってホテルにしてほしい。	<p>市は 2005 年度の市町村合併を経て、約 62,000ha の広大な森林面積を誇る「森林都市」になりました。しかし市の森林率は 68% で日本全体の森林率と大差はなく、山間地域を多く抱える日本では平均的な比率のため、「森林面積が多すぎる」という認識は持っていません。</p> <p>ツリーハウスのホテル建設とのことですが、建築費やその後の運営上の問題があるため現段階では考えてはいませんが、市民が森とふれあう機会を作っていくことは重要なため、「とよた森づくり月間」のイベントや「とよた森林学校」の開催など、今後も引き続き実施していきます。</p>
2	・世界最大の木ジャイアントセコイアやバオバブを輸入、植樹して、シンボルツリーにしてほしい。シンガポールの有名な木のような施設や植物園を。	<p>ジャイアントセコイアは北米に生息する針葉樹で根本直径が 10m 以上にもなる世界一の太さの木と言われ、バオバブもアフリカなどで生育し、シンガポールの木はテンブスと思われませんが、それぞれ各地域を代表する立派な木です。</p> <p>しかし「適地適木」の観点から海外の有名樹種を多く導入することは適切ではなく、それぞれの気候風土に合った樹木を育てることが重要です。</p> <p>「豊田市の木」はケヤキですが、市内の川沿いを中心に自生し、また市内の公園や社寺などに植えられていることから、それらをシンボルツリーとして今後も大切に守っていくことが重要と考えております。</p>